

さくらんぼ

2012
vol.15

～「さくらんぼ」のように男性と女性がいっしょに並んで
「実」となり、「実」がつながって社会(房)が成り立ちます～

結婚すれば...

幸せにしてもらえますか？

誰でも20歳を迎える年頃になれば、「いつかは結婚」と夢見るもの。内閣府の調査(*)でも、未婚男女の9割が「いつかは結婚したい」と回答しています。かつて、女性が男性を結婚相手として選ぶ条件として「3高」という言葉がありました。「高身長、高学歴、高収入」な男性と結婚できたら玉の輿、ということでしたが最近では「3平＝平均的収入、平均的外見、平穏な性格」とも言われるそうです。

ハードルが低くなってきた背景には社会環境の変化があるでしょう。でも、結婚＝幸せというのは本当でしょうか？

現実の生活を幸せに生きていくために必要なのは？

6月に開催された北海道女性協会主催「男女共同参画週間講演会 これからの男女平等社会～子どもたちの未来を見つめて～」での大谷大学社会学部教授 梶井 祥子氏のお話からご紹介します。

*内閣府「結婚・家族形成に関する調査」(2011年)



くわしくは次のページから
ごらんください!

結婚したいけど…不安があります

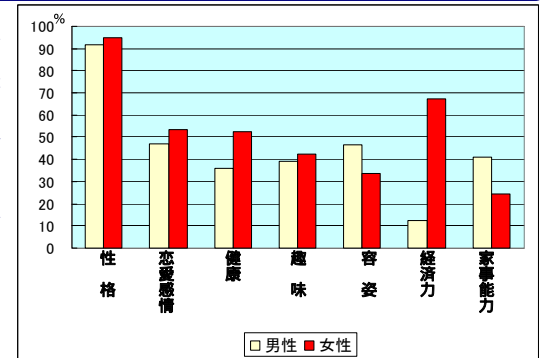
内閣府「結婚・家族形成に関する調査」(2011年)より

将来結婚したいと思う20～30代の未婚者が結婚生活を送っていく上で不安に思っていること

男性の不安第一位 「経済的に十分な生活ができるかどうか」
女性の不安第一位 「結婚相手の親族とのつきあい」

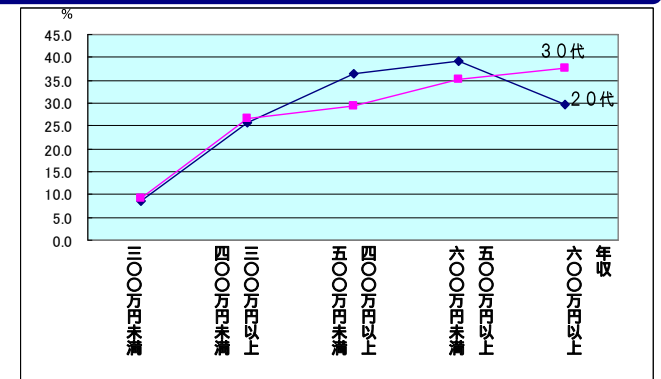
20～30代の男女が結婚の決め手となった条件・結婚相手に求める条件

右のグラフでは、女性が結婚相手としての男性に「経済力」を求めるのに対し、男性はそう高く求めていません。男性は「自分が収入を得て家族を養う」意識があるようです。



年収別の婚姻状況 (20～30代の男性)

年収 300 万円未満の男性既婚率は 8～9%ですが、300 万円を超えると 25%を超えています。年収 300 万円がボーダーラインのようです。



また、総務省の「労働力調査」によれば、就労形態別の配偶者がいる割合は正社員が6割、非正規雇用が3割。収入と結婚は深い相関関係があります。若年層の完全失業率と非正規雇用の割合は高く、ますます結婚しにくい社会環境になって

いることがわかります。夫ひとりで家族を養うことは難しく、夫婦いっしょに家計を担うことが求められているようです。

もちろん、女性が働いていくためには、社会において女性が働きやすい環境になっていくことが求められます。一方家庭においてはどうでしょうか。

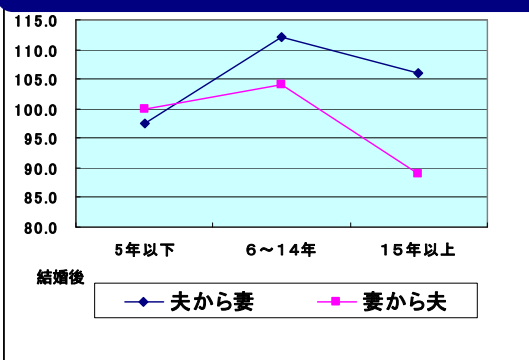
家事・子育ては女性の役割？



例えば…夫は家族を養うために仕事に打ち込み、家庭は妻任せ。妻は家庭にあって家事と子育てに追われる毎日。夫婦は一つの家に住んでいながら、朝から夜遅くまで不在の夫と、炊事洗濯子どもの世事に忙しい妻の気持ちは寄り添っていきけるでしょうか？

右の調査によれば、出産後6～14年をピークに妻の夫への愛がガクンと下がっており、その背景には夫の家事や子育ての分担があります。「家事や育児を分担し、助け合っている」と感じている夫婦の関係は、そうでない夫婦よりも良好であることがわかっているそうです（参考：菅原ますみ著『ママ』というオシゴト』主婦の友社）

夫婦間の愛情の推移（愛情尺度得点の結婚年数による変化） 菅原ますみ氏「夫婦間の親密性の評価」



家族みんなでいきいきと 夫婦いっしょにつくる幸せ

人には様々な生き方や生活形態がありますが、男性も女性もお互いを尊重しつつ、喜びも責任も分かち合っていきいきと暮らして行きたいですね。

夫と妻が様々な役割を協力して分担しあい、個性と能力を十分に発揮している姿。子どもたちはそんな両親の姿を見て育ちます。家族みんながいきいきと暮らす家庭をつくるのが、子どもたちの未来を育み、一人ひとりが幸せを感じながら暮らせる社会につながるのかもしれない。



「第1回子育て応援セミナー」より 中谷通恵さんの子育てアドバイス



親から子どもたちに伝えたい 「仕事で人の役に立つこと」の喜び

★子育ての目標は子どもが自立すること。自立するということは人を愛し、仕事を愛することができるようになることです。

★仕事とは何かというと、生活の糧を得て人の役に立つことです。子どもが10歳を過ぎたら、子どもに社会力をつけるために大人はこのことを伝えなければなりません。1人の人間として社会の中で仕事を通してその糧を得たり、仕事を通して人の役に立っていることを、モデルとなって子どもたちにみせていくことが大切です。

★今、仕事から得られている、自分が人の役に立っている喜びを伝えることが意外と不足しているように感じます。「本当に今日疲れた、職場のあの人がいやだ、この人がいやだ」と言ったら、せっかく仕事を通して社会に貢献しているのに、人の役に立つのが辛くて損するものだと教えてしまいます。同じ仕事をするのでも、社会活動やPTAの役員をやるのでも、「こういうことをやって頼りにされてとても嬉しいよ」「人の役に立ててこんなに充実できたよ」といったことを、ぜひ子どもに態度や言葉で伝えてほしいなと思います。

★男も女も1人の自立した大人としての姿を、モデルとして子どもに見せる。特に思春期以降の子どもに今の時代だからこそ大切なことで、そこをしっかり見せていかないと、「よし、自分も仕事に就いて大変そうだけどやって行こう」という気持ちをなかなか育てていけないと思います。

*NPO法人「お助けネット」代表

発行 平成24年10月
〒061-1498 恵庭市京町1番地
恵庭市総務部総務課 男女共同参画担当
恵庭市男女共同参画推進員（柏野恵里子）
(33)3131（内線2211）
FAX(33)3137（代表）
Mail:soumu@city.eniwa.hokkaido.jp
HP: <http://www.city.eniwa.hokkaido.jp>

